7　全般的事項

＜国際･英語学部　国際･英語学科＞

(1) 設置計画事項等

①設置の趣旨及び必要性

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
教育上の理念、目的 (1)大阪女学院は 1884 (明治 17) 年の創立以来、キリスト教教育を基盤に、当時のモルガン校長のことば、すなわち「すべてにおいて、私たちが目指すことは、なんらかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をすることを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を形成する」ことを建学の理想に掲げ、一世紀を越える女子教育に取り組んできた。 この教育理念は、今日、以下のミッション･ステートメント (1998 年制定) に結実し、学院の教育を支える根幹となっている。 「本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。その目指すところは、真理を探求し、自己と他者の尊厳に目覚め、確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、社会に積極的に関わる人間の形成にある」。 (2)大阪女学院大学が目指す教育の目的は、これからの新しい世代の女性が、さらに自己の存在に目覚め、21 世紀の人類社会が抱える諸課題に、卓越した語学力 (英語)と高度な専門的能力を駆使し、国際社会や地域社会を舞台に、多くの人びとと協働し、積極的に自らの役割を担いうるリーダーシップ の主体となることを支援することにある。 したがって、目指す人材像は、 1)グローバル化の進展する現代社会の中で自己のアイデンティティを確立し、生きる力を確かにすることができる女性 2)平和、人権、環境の保全、多文化共生など、人類文明が崩壊しかねない危機と課題を一人の地球市民として真剣に学習し、世界の人々と認識を共有できる女性	教育上の理念、目的及び養成する人材像を以下の資料等により明示し、理解を図っている。 1)学則 第1条に本学の「目的及び使命」を次のように定め、これを学生要覧に掲載している。 第1条　大阪女学院大学 (以下「本学」という。) は、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。 2　本学は、キリスト教に基づく教育共同体である。その目指すところは、真理を探究し、自己と他者の尊厳に目覚め、確かな知識と豊かな感受性に裏付けられた洞察力を備え、社会に積極的に関わる人間の形成にある」。 教育理念を記述したその他の資料としては、 1)入学案内書 (学部案内冊子) 毎年、メッセージ性の高い文字媒体による冊子を製作。本学ではどのような気づきと学び、経験が可能となるか、4年間の学びを終えるとどのような自己に出会えるかなどのメッセージを伝える案内書の製作を心がけている。登場する主役はあくまでも在学生である　(添付資料①参照) 2)学生要覧 本学の教育の目的、理念を学院の沿革史を通して紹介するとともに、カリキュラムの上にどのように反映しているかを、特にキリスト教教育、人権教育、英語教育の3つの教育の柱からとらえるように促している 3)ホームページ http://www.wilmina.ac.jp 等がある。

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
3)グローバルなレベルでの国際通用性のある英語運用力を実現し、上記の諸課題の解決に専門職業人として積極的に関わることを志す女性 4)独立した個人として自分らしく生き、新しい社会を切り拓いていくことのできるリーダーシップのある女性 だと言い換えることができる。このような女性を本学のキャンパスから世界に送り出すことが、大学設置の目的であり、教育の趣意である。	これらの記述を通して、本学で学ぶ学生には、自己の存在価値への確信、自己変革への意識化、問題意識の立ち上がり、社会参加への意識形成、を早い段階から促し、その基礎教育の上に立って、専門的な学問分野への関心を強め、国際的に通用する英語運用力を駆使し、将来、国際社会や生活世界におけるさまざまな社会関係の中でのリーダーシップの担い手へと成長すること、の期待を表明している。 大学の教育理念･目的を全学的に共有化する努力は本学においては最も力を注いでいる取り組みの一つである。新入生には、本学の教育理念･目的、教育課程がねらいとするところに一定の理解を持って4年間の学修のスタートを切ることができるように、入学時に宿泊プログラムを含む1週間のオリエンテーションを実施。共有化と理解の徹底を図るほか、教養教育学科目「大学教育と社会」、「大学と自己形成」、「自己の発見Ⅰ・Ⅱ」や、その他、毎日続けられるチャペルトーク（礼拝）、リトリート（修養会）等においても伝達するように努めている。

②教育課程の編成の考え方及び特色

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
(a) 教育課程編成の考え方 教育上の理念・目的に則して以下の教育課程を体系的に編成する。	
1.教養教育科目　　計 23 単位以上	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし
①「自己の確立群」必修 11 単位、選択必修 4 単位 〔必修〕 「大学教育と社会」　「身体への気づき」 「キリスト教と世界」　「自己の発見Ⅰ」 「身体活動」 〔選択必修〕 「生の理解と死の理解」　「予防医学と生命科学」 「現代人と宗教」　「技術革新のいま」 「文学の巨匠」　「自己の発見Ⅱ」 「社会学の巨匠」　「文章表現法」 「心理学の巨匠」　「プレゼンテーション」	
②「人権・ジェンダー群」　選択必修 4 単位 「人権の思想史」　「人権の教育」 「人権の制度」　「偏見と相互理解」 「ジェンダーと教育」　「開発とジェンダー」 「国際政治とジェンダー」　「ジェンダーと文学」	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし
③世界の言語群」から選択必修 4 単位 「Arabic Ⅰ」　「Korean Ⅰ」 「Chinese Ⅰ」　「Russian Ⅰ」 「French Ⅰ」　「Spanish Ⅰ」 「German Ⅰ」　「Swahili Ⅰ」 「Arabic Ⅱ」　「Korean Ⅱ」 「Chinese Ⅱ」　「Russian Ⅱ」 「French Ⅱ」　「Spanish Ⅱ」 「German Ⅱ」　「Swahili Ⅱ」	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし
2 専門教育科目　　計 91 単位以上 ＜共通専門教育科目＞　　計 59 単位以上	2 専門教育科目　　計 ~~91~~ 92 単位以上 ＜共通専門教育科目＞　　計 ~~59~~ 60 単位以上 「調査研究群」の必修科目に「ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾈｯﾄﾜｰｸ基礎」(半期 1 単位) を加え、必修 5 単位に変更 【変更理由：カリキュラムの充実を図るため平成 17 年度から科目を追加】
①「調査研究群」　必修 4 単位 〔必修〕 「情報の理解と活用」　「社会調査法」 〔選択〕 「統計分析」	①「調査研究群」　必修 ~~4~~ 5 単位 〔必修〕 「情報の理解と活用」　「社会調査法」 「ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾈｯﾄﾜｰｸ基礎」 〔選択〕 「統計分析」

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
②「英語基礎群」必修 12 単位、選択必修 16 単位 〔必修〕 「Phonetics」　「Grammar」 「Academic Writing」 〔選択必修〕 「Academic Listening Ⅰ」　「Academic Listening Ⅱ」 「Academic Vocabulary Ⅰ」　「Academic Vocabulary Ⅱ」 「Debate Ⅰ」　「Debate Ⅱ」 「Oral Interpretation」　Computer-Assisted 「Computer-Assisted　Speed Reading」 Composition」　「Speech Communication」 「Reading Practicum」　「Interpreting」 「Translation」	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし
③「英語展開群」必修 27 単位 「Topic Writing」　「Topic Reading」 「Topic Discussion」 「Supervised Reading & Research Ⅰ」 「Supervised Reading & Research Ⅱ」 「Study of Current World Events」	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし
＜分野別専門教育科目＞　計 32 単位以上 「分野別専門教育科目基礎群」選択必修 6 単位 ●国際協力基礎群 「サラワクの先住民族」　「教育協力の実際」 「アジアの都市化とスラム」　「グローバリゼーションと水」 「バナナと公正貿易」　「太平洋の非核化と独立」 「日本のアジア政策」　「日本の国際協力」 ●国際マネジメント基礎群 「経営入門」　「経済入門」 「ファイナンス」　「マーケティング」 「広報戦略」　「変わりゆく世界経済」 「経営に関する法律」　「グローバルビジネス」 ●国際コミュニケーション基礎群 「英語学」　「語用論」 「英語教育改革論」　「言語と社会」 「異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし 卒業要件単位数、授業科目とも変更なし

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
「分野別専門教育科目展開群」 必修 6 単位　選択必修 6 単位 ●国際協力展開群 〔必修〕　Graduation Project（卒業研究 ） 〔選択必修〕 Approach to World Refugee Issues（難民の現代史） International Public Policy（国際公共政策） Transcending Conflict（紛争転換法） Multi-cultural Education（多文化教育） Education for Development（自立のための教育方法） NGO /NPO Management（非営利団体の運営） Vegetarianism, Life and the Ecosystem （菜食・生命・環境） Labor Problem and Human Rights Issues in Asia （アジアの労働問題と人権） 〔選択〕　Field Work（フィールドワーク） ●国際マネジメント展開群 〔必修〕　Graduation Project（卒業研究 ） 〔選択必修〕 Strategic Management（戦略経営） Supply Chain Management（ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ） Human Resource Management（人材養成マネジメント） Intellectual Property（知的財産権） Female Leadership Initiative（女性の経営参画） Global Marketing（グローバルマーケティング） International Accounting & Taxation（税務会計） Risk Management & Insurance（ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄと保険） International Transaction Laws（国際取引法） 〔選択〕　Internship（インターンシップ） ●国際コミュニケーション展開群 〔必修〕　Graduation Project（卒業研究 ） 〔選択必修〕 [英語教育領域] Teaching English as a Foreign Language（英語教授法） Studies in Language Testing（言語テスト法） Curriculum Design（カリキュラムデザイン） Teaching of English Phonetics（音声指導法） Bilingual Education（バイリンガル教育） Teaching English for Children（児童英語教授法） [通訳・翻訳領域] Comparative Culture Studies（比較文化研究）	卒業要件単位数、授業科目とも変更なし

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
Studies in English-Japanese Expressions （日英表現研究） Business of Interpreting（通訳の世界） Business of Translation（翻訳の世界） Studies in English Interpreting in Business （実務英語通訳法） Studies in Court Interpreting（法廷通訳法） Translation as Professions（実践翻訳法） 〔選択〕 Field Work（フィールドワーク）	
3.その他選択科目　　計１０単位以上 上記 1.教養教育科目及び 2 専門教育科目の選択科目を含む任意の学科目 合計 124 単位以上	3.その他選択科目　　計~~10~~ 9単位以上 上記1.教養教育科目及び2専門教育科目の選択科目を含む任意の学科目 ［変更理由：専門教育科目の卒業要件単位数が1単位増えたため、その他の選択科目の要件単位数を1単位減じることで調整する］ 合計 124 単位以上
（b）教育課程編成の特色 (1)アイデンティティ確立のための教育	計画通り実施。 教養教育「自己の確立群」は、「人間」一般への理解よりは、「自己」に気づくことに焦点を当てている。自覚的な「自己」であることによって初めて主体的な学び、選択、行動が可能となり、自分の「現在地」への認識へと繋がる。添付資料は、このねらいを代表する科目である1年次全員必修科目「自己の発見Ⅰ」の概要である。 （添付資料②「自己の発見Ⅰ」科目概要）
(2)人権およびフェミニズムに関する基本的認識力の育成	人権及びフェミニズムに関する学科目展開に加え、1・2年次の英語教育でも「現代の人権」をコア・コンテンツとして設定し学習している。
(3)高度な英語運用力の育成 1)1・2年次の英語教育＝スキルと知の統合化 　コンテンツ・ベースの教授法によるカリキュラムを用い、スキルと知の統合化を図る。コンテンツに当たるトピックには、21 世紀の人類的課題として設定する4つのコアトピック、すなわち「平和の追求」、「科学と宗教」、「現代と人権」、「生命の危機」を取り上げる。 　これらのコアトピックを英語「で」読み、聴き、書き、話す学習方法によって、四技能を統合的に強めるとともに、コンテンツに関する知識を深めてコミュニケーション能力を総合的に高める。	計画通りに実施している。 1.「平和の追求」「科学と宗教」「現代の人権」「生命の危機」の4領域のコア・コンテンツの理解と問題意識の立ち上げを図る。 2.「例証」「過程」「比較・対照」「原因・結果」等の論文における英語の論理展開方法の修得、英語によるディスカッション、プレゼンテーション、APA（アメリカ心理学会）スタイルに準拠した英語論文の作成を行う。 上記 1.教養教育と 2.英語教育を統合した学修 （別紙①「学習の状況と成果」）

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
2)3・4年次の英語教育＝専門職業への直結 英語で考え、英語で発信する方法を徹底することによって英語語学力の国際通用性を確保し、専門職業に直結させる。 3)英語スキルの達成目標 教育の質を維持し、学習の目的を充足するために、2年次および4年次修了時における英語スキルの達成目標（基準）を次のとおり定める。 2年修了時：TOEIC 700 点 または CBTOEFL 200 (TOEFL 533)点 英語でのコミュニケーション、リサーチペーパー作成能力、英語聴解力 4年修了時：TOEIC 800 点 または CBTOEFL 230（TOEFL 570）点 上級ディスカッション能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力 4)「分野別専門教育科目（展開群）」受講資格の設定 第3学年および第4学年に配当する分野別専門教育科目（展開群）は すべて英語で授業を行う。そのため、当該学科目の受講資格を、2 年次修了時に求められる英語到達目標に照らして、 TOEIC 675 点 または TOEFL 520（CBTOEFL190）点以上とする。	計画通り分野別専門教育展開群科目の英語による展開を実践している。 第一期生が到達した英語運用能力を、学生全員に受験を課している TOEIC-IP 平均スコアで示すと、1 年次7月におけるスコア 406 点が 2 年次修了時までには 558 点（全国大学2年平均 435 点）となり 152 点の上昇、3年次修了時までに 619 点（全国大学 3 年平均 472 点）となり 213 点上昇した。 （別紙②「第一期生TOEIC-IP（TOEIC OFFICIAL TEST を含む）時期別平均得点状況」） なお、二期生は同じく 418 点から二年次修了時までに 548 点へと 130 点の上昇が見られた。 第一期生の 2 年次修了時の平均点 558 点は展開群科目の受講資格として設定した TOEIC675 点とはまだ少し距離のある結果となっている。 全学を挙げて、授業はもとより、個別学習へのｻﾎﾟｰﾄ体制の整備、夏期及び春期の英語ｾﾐﾅｰ、合宿の実施等、ありとあらゆる方法を用いての結果であるが、この状況を受けて、度重なる検討・協議を経て、展開群科目について英語運用力の習熟度に応じてｸﾗｽを展開すること、受講資格をａｸﾗｽは TOEIC600 点以上 PB-TOEFL500 点、ｂ ｸﾗｽは TOEIC500 点以上とする等の取扱いとした。教養教育を英語で徹底して学習する 1・2 年次のｶﾘｷｭﾗﾑを修めた本学の学生は、たとえば、図書館で1人平均年間 57 冊（2006 年度 2年次の平均）を借りるなど、本格的に情報を英語や日本語でｲﾝﾌﾟｯﾄし、米国の学会が定めている APA(American Psychological Association)の形式に準拠した小論文を英語で書く力を磨いてきた。このような TOEIC だけでは測れない英語運用力を培ってきたからこそ、専門を英語で学習するという難関にも十分耐えうると考えている。
(5)英語による授業の比重 展開群の全科目と合わせ、卒業要件単位数の最低 65 パーセント以上は英語による。	展開群の全科目と合わせ、卒業要件単位数の最低 65.3 パーセント以上は英語による。（124 単位中 81 単位「Graduation Projects 6 単位を含む）

認 可 時 の 計 画	履 行 状 況
(4)学際的視野の育成 1・2年次には英語力を身につけながら、問題発見、分析、解決能力の獲得を目指す。 3・4年次には、各自が選択した分野で人々と協働して社会に貢献できるよう、具体的なスキルの向上を念頭に置いて専門知識・技能を修得する。	1・2年次の自己の展開群科目や教養教育と英語教育とを統合した教育課程を通して、必要な情報を収集し、問題点を明らかにして、学生は自分の考えを「書きまとめる」ことが再三にわたってもとめられている。問題発見、分析、解決の実践経験である。 3・4年次では、分野別展開群専門科目が、「国際的に通用する実践的な英語力をもとに国際協力、国際マネジメント、国際コミュニケーションのコース分野別の専門知識を深めて、また、そのスキルを身に付け、卒業後に期待される専門職業能力を育成する」ことを目的に展開されており、学生は、時間と労力をかけて、当該各科目はもとより、4 年次では本学での学修の総マトメとなる「Graduation Project 卒業研究」でも英語での論文などの作成に取り組んでいる。
(5)フィールドワーク、インターンシップの実施 国際的な業務や仕事への目的、それらの分野で働くことの意義や動機づけを明確にし、学問的蓄積に加えて、実践の分野で経験を通して実際的かつ応用的能力を身につける目的で、3・4年次に実施する。	参加する学生を経済的にサポートするために全学生が 1 人40万円まで受給可能な奨学費「専門教育支援費」を整備して、TOEIC675 点（誤差範囲 640 点）以上を取得している学生が英語だけで6週間豪州、香港、米国等海外で就業体験する「ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ」を実施。また、たとえば途上国等で困難な任務を負う人々と接し学ぶ「ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ」（期間 2 週間程度）を実施している。なお、2007 年度のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟは 20 名の 3・4 年生が豪州、香港、ＮＺの企業、米国提携大学事務局の英語のみを用いる就業体験に参加予定。ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸは、ネパール、インド、ベトナム、バングラデシュ、香港、台湾へ約 45 名の 3・4 年生が参加予定である。 その他の特記事項 【ｾﾒｽﾀ留学】 3・4年時の約4ヶ月間ＮＺ、韓国、台湾、香港等の提携大学へ正規留学し専門科目を主に学習し単位取得する「セメスタ留学」を実施。PB-TOEFL520 点程度以上の学生が対象である。今年度は韓国の梨花女子大、台湾の元智大学、香港ﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ大学に、春学期6名、秋学期の 10 名を加え計 16 名を派遣予定である。昨年、ｾﾒｽﾀ留学をした 12 名の学生の履修状況を見ると、平均 4.25 科目を履修し、内 1.58 科目は専門教育科目を履修・修得している。修得した専門教育科目の評価の平均は、点数評価の大学(台湾:元智)においては 78.5 点、段階評価の大学（韓国:梨花女子、香港ﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ、NZ:ﾘﾝｶｰﾝ）においては B から B-であった。履修科目は全て単位取得を果たしている。